



「見たり、聞いたり、探ったり」No.219

通算 No.371

青木行雄

日本最西端「最果ての島」沖縄県与那国島

日本最西端の地、与那国島、どこまでも続く深い深い青の水平線、遮るものが何も無い広い空、広い海、そして海の底に沈んだと言われる海底遺跡、与那国島は沖縄本島とはまた一味違う。ここが日本だという事を忘れてしまいそうな、そんな魅力のある島であった。人口1,543人、与那国馬と言う馬が放牧されている。野山や道路をカッポして歩いており、時間を忘れるほどだ。今回は、そんな与那国島の魅力をたっぷり記してみたいと思う。

北海道にも「最果ての島」があるように、南・西にも当然最果ての島がある。この最西端の島がこの与那国島である。そして最西端の碑があるのが「西崎」と読む。沖縄では、太陽が上がる東を「アガリ」といい、太陽が入っていく西を「イリ」と呼ぶ。そしてちなみに南は「フェー」。北は「ニシ」という。

最西端の碑の近くには展望台があって、与那国の景色を一望することが出来る。

石垣島から、飛行機で約30分、距離では124km、台湾まで111kmで、台湾の方が近い。天気が良く空気が澄んだ日には、台湾の山々が見える時もあるという。今回は見られなかったが西崎の丘の上からブルーの地平線に向って、「今、日本の最西端にいるんだぞー」と思わず叫びたくなる心境であった(実は叫びました)。

ここ、与那国島は、日本で一番最後に夕陽が沈む場所なのである。のんびりと夕陽が沈むのを眺めたい心境だが今回は出来なかった。実は『日経新聞』2018年3月17日の朝刊「何んでもランキング」に「日本の端っこ、新たな地平」に1位は、北海道の「宗谷岬」だったが、6位にこの「西崎」が掲載されていた。

『日経新聞』の文面を記すと、

6位・与那国島・西崎 日本最西端(沖縄県)

のんびり一周 小さな島

「西崎は日本で最も遅く夕陽が見られる場所。日本の東西南北端で唯一誰でも訪れることができ『日本最西端の地』の碑で記念撮影もできる。台湾まで111キロの距離にあり、晴れた日には台湾の島が見えることもある。

与那国町によると12月～3月にかけての冬がベストシーズンで、海外から訪れる人も増えている。」
こんな文面が記されていた。



※南海の黒潮にもまれた与那国の岸壁は切立っていて男性的であった



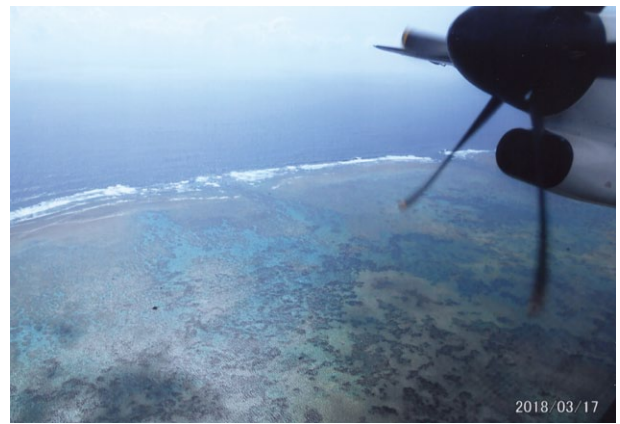
※久部良の町並、西崎より望む、ここに漁港があってカジキは水揚げされる。またここから海底遺跡に行く船が出ている。



※最西端の石碑、日本、さいはて西端の碑である。所在を実感して手で触れてみると格別な思いが湧いてくる。



※琉球エアークミュータ、日本航空子会社国内線、石垣・与那国間、1日3便 50人程乗れる小型プロペラ機



※石垣から与那国間の上空を飛行中、約30分、海はサンゴ岩

私達がこの島へ行った10日後の平成30年3月28日(水曜日)沖縄訪問中の天皇・皇后両陛下が那覇から特別機でこの与那国島に向かい、日本最西端の碑が立つ岬「西崎」を訪問された。そして与那国町立久部良小学校で島の伝統芸能「棒踊り」を鑑賞。漁協にも行き、クレーンで吊り下げられた巨大カジキを見学して漁法なども質問されたようだ。

今から30年程前、この与那国島でサバニと呼ばれる小舟を操り、巨大なカジキを一本釣りする82歳の漁師がいた。1年に及ぶ不漁に苦しみ、ついに大物を仕留める。その一部始終を記録したのが、ジャン・ユンカーマン監督の映画『老人と海』で、名作の誉れ高い。この伝説、漁師の名は糸数繁さん、寡黙な人であるが、待望の釣果があった晩、仲間の爪弾く三線にあわせて照れくさそうに踊ったそうだ。よっぽどうれしかったのだろう。

この映画は2年がかりで撮影が行なわれ釣り上げた大物カジキは171kgもあったという。1990年(平成2年)の春のことである。そしてその夏、糸数さんは、いつものようにサバニに乗り漁に出て、与那国の海でカジキと格闘の末帰らぬ人となった。どれ程巨大だったか、精根尽きて黒潮の海に引き込まれていったのであろう。



※いかにも「カジキ」が水揚げされる島であるぞと言わんばかりの立看板である

この久部良漁港のすぐ近くに「松方弘樹」氏の別荘というか、邸宅が豪華な門構えであった。今はある会社の所有となっているらしいが当時はかなりの日数ここで過ごしていたと近くの人が言っていた。それ程カジキ釣りの魅力は大きいのであろうか。この与那国で年間約1,000匹水揚げがあるという。平均100kgあるらしい。そして、どこに買われるのかを漁協に訪ねたら殆んどが熊本に行くという。どうしてか…？

海底遺跡について

海の底に沈んだといわれるロマン溢れる海底遺跡である。ダイビングの免許を持っていなくても、体験ダイビング、またはシュノーケルで海底遺跡を間近で見ることができた。この海底遺跡を見るには久部良港から船で約30分ぐらいかかった。スタッフから海底遺跡の地図を使って解説してくれる。この遺跡は人が造ったものか、自然にできたものか、まだ解明されていないというが、それでも、人が造ったかのように階段状の遺跡があってずっと昔、ここに古代文明があったのか、人々が生活していたのだろうか、そんなロマンと言うか神秘的な魅力を感じる遺跡であった。その時、グラスボートで海底を眺めていたら、海ガメの大きな甲羅が何匹も見えたり、バカデカイ魚を発見したり(カジキマグロ?)、楽しさとロマンがいっぱいだった。

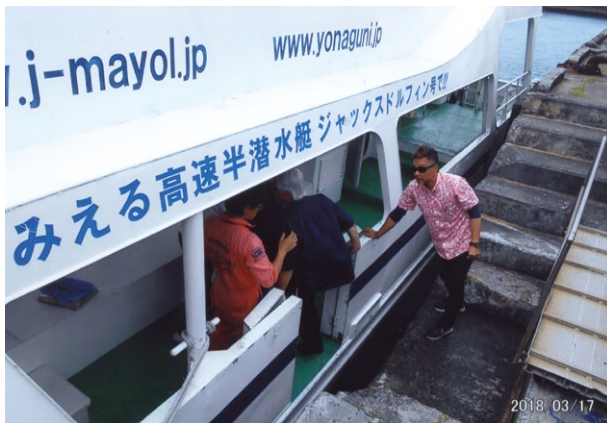
Dr.コトー診療所にも行ってみた。

2003年(平成15年)今から15年程前にフジテレビ系列で放送された「吉岡秀隆」さん主演のテレビドラマだが、ドラマでは志木那島という架空の島が舞台なのだが、ここ与那国島で主に撮影が行なわれている。かなりの視聴率で人気があったというが、コトー先生のファンの方も多く今でも見学者がかなり多かった。

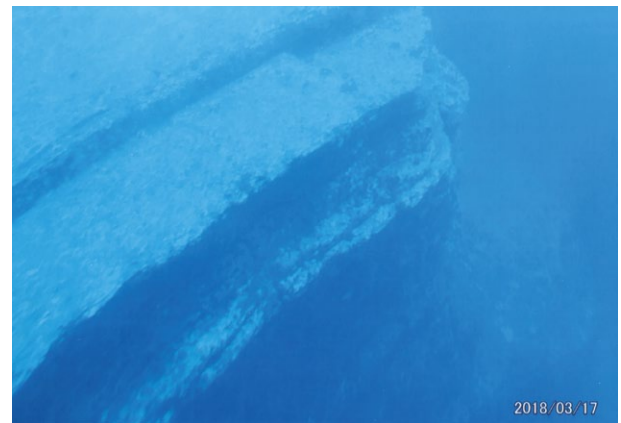
この診療所はドラマのために建設された風景がすばらしく、何もない自然の中に診療所はある、この



※カジキ1年に1,000匹が水揚げされる。与那国島、両陛下も見られたようだ。大きいので200kg、平均100kgという



※海底遺跡の場所に行く船。底にガラス張りの見場所がある。



※海底遺跡の1コマだが、大きな石段、柱など昔の宮殿を思わせるような場所が何箇所かあって、私のカメラには撮影出来なかった。

町は120人ばかりの小さな村でこの見学料は300円。小さな町の収入源のようだ。待合室に昔の小さなテレビが1台、当時のテレビドラマを流していた。

この診療所に行くには与那国空港から車で約10分、受付に人がいない事もあるので受付の箱に入れる。

撮影してからかなりの年月が過ぎているので手入れもあまり行き届いていない、診療所はかなりいたんでいた。診療所以外にも島の至るところが撮影場所、ドラマに多く出て来るので関心があれば何倍も楽しくなるはずだ。1軒の居酒屋で食事をしたが、うちも撮影の場所でしたと言う。つつい長くなって酒量も多くなった。



※ドクターコトー診療所で自然の中にポツンとこの家がある。与那国に来たら必ず行く場所かも知れない。

与那国馬とテキサスゲートについて

西崎灯台から島の南側を回り比川集落に向かう間に広がる南牧場、島の固有種ヨナグニウマや牛などが放牧されていて、サファリパークみたいな感じであった。車道と牧場は全く区切られていない。むしろ車道が牧場の中にあるようであった。馬が牧場内を出られないように仕切られているのは「テキサスゲート」という溝があった。人や車は通れるが牛馬の足では通れない仕組みがテキサスゲートである。島全体で馬は60頭ぐらいいないらしいが絶滅惧種の部類という。今は農耕作業にも馬は使わないので、観光用らしいが、のんびり生きている様子を見ながら、自然の美しさに感動した。

両陛下沖縄訪問について

退位を前にして、いまもう一度訪れたいという強い願いを果たされた。天皇、皇后両陛下が沖縄県を訪問された。前に少々記したがもう少し沖縄訪問について書き添えたい。



※与那国には3つの村があって「祖納」の近くにある、「ティンダハナタ」というサンゴの岩場



※「ティンダハナタ」より「祖納」を望む、与那国町役場のある村



※東崎の近くにある、「軍艦岩」見事な出来ばえの自然岩である。荒々しい、黒潮による天然彫刻岩



※これ又「立神岩」、与那国島のパンフにも使われる代表的な存在、見事な天然岩

両陛下にとっては11回目の沖縄訪問という。そして在位中は、最後になるとみられる。

陛下は到着早々、糸満市の国立沖縄戦没者墓苑で沖縄戦の犠牲者を慰霊された。墓苑の関係者には「たくさんの方の戦没者を守っていただいて」と謝意を伝えられたようだ。

沖縄では、先の大戦中に、住民が約94,000人も犠牲になったという。

陛下は皇太子時代、日本人として「忘れてはならない四つの日」として、終戦記念日、広島・長崎の原爆投下の日、6月23日の沖縄慰霊の日を挙げられた。

昭和天皇も晩年、沖縄訪問を切望されたが、病により実現しなかった。その遺志を継いだ面もあったと思う。苦難の道を歩んだ沖縄の人々に徹底して寄り添い、平和を祈念する、陛下の行動から信念が伝わってくる。

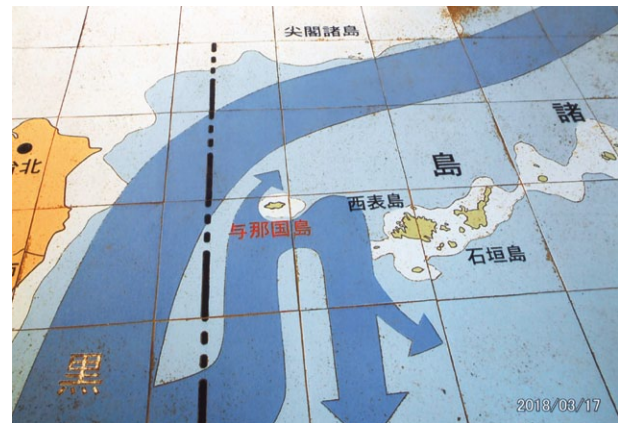
1975年(昭和50年)皇太子の時初の沖縄訪問時には、「ひめゆりの塔」で火炎瓶を投げつけられる事件に遭遇した。それでも陛下の沖縄に対するお気持ちは変わらなかったのである。

1993年(平成5年)に、天皇として初めて訪問し、戦後50年だった1995年(平成7年)には「平和の礎」に足を運ばれた。2014年(平成26年)には、学童疎開船「対馬丸」の犠牲者に供花された。そんなこともあったが今回で11回目の沖縄訪問である。そして初めての与那国島への訪問となったのである。前々から一度はこの与那国島へ行きたいと要望はあったようだが、機会がなかったのだろう。

退位後は、静かな日々を送られる見通しという。一つの区切りとなる今回の沖縄ご訪問は、陛下の心

日本最西端の与那国島	
北緯	24度27分
東経	123度00分
面積	28.88 km ²
周囲	27.5 km
年間平均気温	24度
沖縄本島まで	520 km
台湾まで	111km
姉妹都市	花蓮県花蓮市

※「西崎」の展望台の中に書かれた看板



※台湾と与那国島の上に幅50km以上もある黒潮が流れている。この黒潮の中にカジキはいるのか。

に与那国島も含め深く刻まれたことと思う。

いろいろ記したが、もう少々与那国島を紹介したい。

日本最西端の地

「与那国島」～どうなん～

沖縄本島から南西へ約509km、石垣島から約127km、東京から約1,900km（飛行機で約3時間20分）、周囲27.49km、面積28.95km²、の日本最西端の地、与那国島。隣接する台湾とは、約111kmの距離にあり、年に数回台湾の山並みが見える。荒々しい波が打ち付ける断崖絶壁の景観は、男性的な力強さがあり、自然・文化・歴史すべてが八重山のどの島にもない独特の雰囲気を訪れる人々を魅了してくれる。

私の宿泊したホテル、「アイランドホテル与那国」は、島では1～2のホテルのみ、他に民宿は何件かあるらしい。このホテルのフロントで仕事をしている社員、特に女性の方に聞いてみると殆んどが本土の人で、観光で来島し、この島に魅せられ、移住したと言う。この島の半分以上が他者と言うのだ。理由はあるとしても本土では味わえない魅力のある島なのであろう。

ホテル内での出来事を付け加えると、

島内には外灯も少なくホテル前でも午後10時過ぎには真っ暗闇になる。フロントにも午後10時には人がいなくなるので注意するよういわれた。

夜の食事後午後8時からフロント前で島の芸が始まると言われ楽しみにしていた。

島内では有名な「三線」の「玉城孝」先生と「タイコ」の「益けい子」先生の共演で、与那国音頭・小唄、あさどやゆんた。花、19の春など10曲ほど弾いてくれ、大変盛り上がり、踊り出す人まであらわれた。なんとも口では言いあらわせない南国の雰囲気であった。

人口、1,543人(平成28年6月現在)

1番高い山「宇良部丘」236m

小学校3校、中学校2校、高校ナシ。

酒(泡盛)酒造所3蔵あり、日本でアルコール度数が一番高いお酒「花酒」(60度)の泡盛が製造されている、与那国島

終戦後、本土から切断された沖縄は、深刻なモノ不足に島民は大変苦勞されたようだが、与那国は台湾との密貿易拠点として栄えたらしい。その時代闇屋が集結し、ピーク時の人口は1万数千人に達したという。今は1,500人程で半農半漁で観光にも力を入れている。最近尖閣諸島も近いことから自衛隊の入島もあって人口は増えており、魅力的な島でもあるので、移住する人が増えているようだ。

このような与那国島は日本本土を守る大事な西端の拠点になるかも知れない。また開発を避けて、この自然を長く保ってほしいと願うばかりである。

アイランドホテル与那国

〒907-1801

沖縄県八重山郡与那国町与那国 4647-1

TEL 0980-87-2300

FAX 0980-87-2304

参考資料

与那国島パンフ

与那国島漁協

日経新聞

日本史年表 岩波書店



出典：http://www.yonagunijima.net/sightseeing.php

平成30年4月22日記

日本最西端の証
A proof of the most west point of Japan

THE MOST WEST POINT OF JAPAN

青木 行雄 様

あなたは、本日、東経122度56分04秒・北緯24度27分00秒、日本最西端の与那国島・西崎にその足跡を残したことを証明します。

最西端
30年3月18日
到達記念

与那国町観光協会
〒907-1801 沖縄県与那国町与那国437番地17
TEL.0980-87-2402 FAX.0980-87-2445
No 077120

沖縄県与那国島